

1 部門目標

収容不能例を入院依頼の 17%以下にする。

2 業務体制・スタッフ

医師のスタッフは、岩松利至、大塚春美、今井郁子、鈴木康浩、大橋美香の 5 名です。統括部長は平成 30 年 10 月 1 日付けで、岩松が担当することとなりました。臨床心理士は藤嶋加奈です。東京女子医大本院より後期研修医の白倉茉由子（H30 年 1 月～6 月）、木原祐希（H30 年 7 月～12 月）、院内小児科より中島聡（H30 年 1 月～8 月）、藤田冴香（H30 年 6 月～9 月）、高居宏武（H30 年 9 月～H31 年 3 月）が加わりました。院内初期研修医は亀田瑛佑（H30 年 3 月）、太田萌（H30 年 2～3 月）先生が研修されました。千葉医療センターからは前年に引き続いて、初期研修医の川谷慶太（H30 年 11 月）先生が研修されました。

3 業務実績

1) 持続陽圧呼吸管理例の増加

平成 30 年 1 月～12 月の入院数は 270 名で、ほぼ前年と同数でした。院内出生は 200 名で入院の 74.1%でした。出生体重 1000g 未満は 13 名で前年と同数、1000～1499g は 28 名で前年より 6 名増でした。死亡は、1000g 未満の 1 名と、2500g 以上の 2 名の計 3 名であり、死亡率は 1.1%でした。

気管内挿管での人工呼吸管理症例は 32 名でほぼ前年と同数でしたが、持続陽圧呼吸管理症例は 117 名であり前年より 21 名増加しました。以前であれば挿管管理となっていた呼吸障害症例に対して、まず持続陽圧呼吸管理で対応するように変わってきており、この傾向は今後も続くと思われます。これに伴い持続陽圧呼吸管理専用呼吸器が不足することが多く、その都度レンタルで対応するという状況が続いております。

また平成 30 年も、東京女子医大東医療センター新生児科長谷川久弥教授の往診による気管支鏡検査が 9 回行われました。

2) 入院依頼（母体搬送依頼を含む）の 79.6%に対応

院外からの入院依頼（産科への母体搬送依頼を含む）は 255 件ありました。うち、新生児入院の 70 件（直接入院 66 件、往診での新生児救急搬送入院 4 件）と、母体搬送等での対応 133 件の、合わせて 203 件（依頼の 79.6%）に対応できました。

平成30年(2018年)入院状況

作成： 2019/4/5

1) 総入院数 270 名
 *院内 200 名 74.1%

*院内にて出生後、NICUもしくはGCUへ入院(再入院 2名含)

出生体重	入院数	死亡数
~999g	13	1
1000~1499g	28	0
1500~2499g	128	0
2500g~	101	2
合計	270	3

平成29年 (前年比)	総入院数	269 名 (100.4%)
	院内	208 名 (96.2%)

当院受診(非紹介)	22	*初診時より当院にてフォロー
母体搬送	70	
産科外来紹介	108	
未受診	0	
合計	200	

在胎	入院数	死亡数
22~24週	0	0
25~27週	9	0
28~32週	41	1
33~36週	112	0
37週~	106	0
不明(未受診)	1	2
合計	269	3

	使用人数	日数	平均/日数	平均/入院
人工呼吸器管理(IMV)	32	634	19.8日*①	11.9%
CPAP,DPAP	117	2012	17.2日*①	43.3%
サーファクタント	34			12.6%

*①(日数/使用人数)

*②(使用人数/総入院数)

2) 入院依頼(院外より) 255 件

*院外での出生児、出生後に当院NICUもしくはGCUへ入院

平成29年 (前年比)	入院依頼	224 件	113.8%
----------------	------	-------	--------

①入院 70 件
 27.5% (入院/入院依頼)

平成29年 (前年比)	入院	61 名 (114.8%)
	入院/入院依頼	27% + 0.3%

救急車	66	*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って救急車にて当NICUに入院した症例
自家用車	0	*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って自家用車にて当NICUに入院した症例
新生児救急搬送	4	*出産施設ですでに出生している重篤な児を当院新生児医師と看護師が救急車で迎えに行きNICUに搬送した症例
分娩立会士搬送	0	*新生児医師と看護師が救急車で出産施設に向き、分娩に立ち会ったうえでNICUに搬送した症例
三角搬送	0	*医師が救急車等で依頼元医療施設へ行き、新生児と同乗してほかの医療施設へ搬送した症例
合計	70	

②他科収容・相談など 133 件
 52.2% (他科収容・相談等/入院依頼)

平成29年 (前年比)	他科収容・相談など	151 名 (88.1%)
	他科収容・相談等/入院依頼	67.4% -15.2%

当院へ母体搬送	92
未受診・当院へ搬送	2
相談のみ/紹介医にて治療	23
外来受診(外来紹介)	16
その他	0
(当院小児科)	0
(発達外来)	0

③入院不能 52 件
 8.2% (当院満床/入院依頼)
 12.2% (その他/入院依頼)

平成29年 (前年比)	入院不能	12 名 (+32名)
	当院満床/入院依頼	0.9%
	その他/入院依頼	4.5%

他院収容(当院満床)	21
(産科)	3
(新生児科)	18
(両科共に満床)	
その他	31
(24週未満)	3
(レスピレーター不足)	14
(N対応できる医師いない)	8
(院内停電)	1
(血管異常)	1
(こども病院・大学へ)	4

4 1年間の総括

- 平成 30 年も夏場に MRSA 保菌者が増加し、結果として感染症の判断で治療を要する症例も認められました。
- 当院小児科および東京女子医科大学本院小児科から、複数名の後期研修医の安定した派遣を受けることができ、診療体制が充実しました。
- 依頼の 20.4%に対応ができず、前年よりも対応不能率は上昇しました。
- 本年も廣瀬陽介先生に加えて、当科での研修を終了した当院小児科の高居宏武、藤本遼先生に、当科の当直業務をお手伝いいただくことができました。

※8月に動脈管結紮術1例を、千葉県こども病院心臓血管外科の青木満先生と齋藤友宏先生に、往診にて執刀していただきました。

1年以上の長期入院者の内1名は在宅人工換気で退院、1名は下志津病院ポストNICUに転院できました。

5 今後の目標

今後も入院依頼の収納不能17%以下目標が継続できるよう医師の確保・育成に力を注ぎたいと考えています。